

年月日 2011年4月12日(火)～18日(月)  
 回数 第二回・四国お遍路(通算歩行日数=5日～10日)  
 参加者 後藤隆徳、高岡八千代、土屋弥生、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、陶山泰信(お遍路でなくランニング)=8名+1名

遍路寺

- 十八番札所 恩山寺(おんざんじ) 徳島県小松島市田野町字恩山寺谷 40  
 ご本尊=薬師如来 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか  
 メモ=十七番札所から長い。小高い山の上にある。
- 十九番札所 立江寺(たつえじ) 徳島県小松島市立江町字若松 13 番地  
 ご本尊=延命地藏菩薩 おん かかかびさんまえい そわか  
 メモ=町の中だが本堂は巨大で立派。
- 二十番札所 鶴林寺(かくりんじ) 徳島県勝浦郡勝浦町生名字鷲ヶ尾 14  
 ご本尊=地藏菩薩 おん かかかびさんまえい そわか  
 メモ=お遍路さんから「お鶴さん」などと呼ばれる阿波の最大の難所の一つ  
 標高約 500 ㍎の山頂にある。険しい遍路道の道中には、南北朝時代に建立され  
 寺まで距離を示す「丁石」が 13 基残る。2010年には四国霊場を巡る  
 遍路道では初めての国の史跡に指定された。
- 二十一番札所 太龍寺(たいりゅうじ) 徳島県阿南市加茂町龍山 2  
 ご本尊=虚空蔵菩薩 のうぼう あきやしや きやらばや おん  
 ありきや まりぼりそわか  
 メモ=歩く遍路は鶴林寺から 2 ㍎下り、麓の道を 500 ㍎ほど歩いて那賀川  
 を渡り、鶴山よりもきつい山頂までの 3 ㍎の急な山道を登る。車は下車後、  
 約 1 km の急坂を歩いて登る。かつての難所だけあって今もきびしい。青  
 年のころの太師は、一沙門に求聞持法を授かってより、阿波の大龍岳や土  
 佐の室戸岬を修行の地とされた。境内から向こうの山に鶴林寺を遠望出来  
 る。
- 二十二番札所 平等寺(びょうどうじ) 徳島県阿南市新野町秋山 177  
 ご本尊=薬師如来 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか  
 メモ=霊水がある。この霊水は開運鏡の井戸として、本堂石段の左にあり、  
 どんな日照りにも枯れることなく、こんこんと湧き出ています。万病に効  
 く「弘法の霊水」として、全国に知られています。
- 二十三番札所 薬王寺(やくおうじ) 徳島県海部郡美波町日和佐  
 ご本尊=薬師如来 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか  
 メモ=美波町へは平等寺から三つの峠を越える。薬王寺は日和佐の町を見  
 下す山の中腹にあり仁王門から 33 段の女厄坂。本堂までの 42 段の男坂

がある。女33歳、男42歳が厄年で厄年の人は厄銭を落としながら登る。四国一の厄除けの寺だけに年間100万の人が参拝する。

- 二十四番札所 最御崎寺（ほつみさきじ） 高知県室戸市室戸岬町4158-1  
ご本尊=虚空蔵菩薩 のうぼう あきやしや きやらばや おんあり  
きやまり ぼり そわか

メモ=室戸までは85キあまり、途中の八坂八浜の美しい海岸で、弘法大師が鯖を蘇生させたと伝える番外「鯖大師」がある。土佐路は穴喰を過ぎて間もない甲涌から。荒涼とした海岸沿いに一本の通がどこまでも続く岬の突端に洞窟があり、御蔵洞という。

十九歳のとき大師は洞窟に籠って「求持の法」を苦行のはてに成就する。「土州室戸崎に勤念す。谷響を惜しまず、明星来影す」と自ら書かれ「法性の室戸と言えど、我住めば、有為のなみかぜたたぬ日ぞなき」と、ご自身で詠まれている。御蔵洞の先に最御崎寺への登り口がある。

使用バス 清水町・D観光（ドライバー・M）

第1日目 4月12日（火・晴） 通算歩行日数=5日 距離=約13km

清水町4:30-三島4:40-下土狩駅4:50-なめり駅5:00-竹沢種苗店5:20-東名一浜名湖SA7:10~30-新名神-淡路SA10:40-上鮎喰橋コンビニ12:25-十八番札所・恩山寺16:15~40-「お宝の湯」-民宿「ちば」(泊)

ちば 徳島県小松島市田野町字恩山寺谷21 0885-33-1508

・泊二食6825円 ・恩山寺入り口 ・トイレはウォシュレットでない  
・食事はまあまあ ・お風呂は1Km先の「お宝の湯」あり ・ドライバーは無料割引

昨年秋に続き2回目の四国お遍路。参加者は前回と同じメンバー。天気は良かった。淡路SAで「蛸弁（900円）」と「明石焼き」を初めて食べたが、後者は甘くて口に合わなかった。

前回最終地、伊予街道・上鮎喰橋東交差点からR203を出発。道は眉山（びざん）南を通過し、地蔵越から小松島市に向かっている。峠手前に「地蔵院」があり、「地蔵越遍路道」と呼ばれている。次の十八番札所・恩山寺まで約14Km。

峠を越えR55に進んで行く。辺りは、まだ桜が満開だった。道路沿いに阿波・室戸シーサイドラインと呼ばれる高德線が走っている。一両編成の電車が凄いスピードで走り去った。

西須賀町に入る。15時近くなり歩き疲れた。まだ恩山寺まで距離はある。フツと見ると「心とからだの御休み処・chiyo」があった。折角だからお接待を受ける。能田邦子さんとお母さんで経営している「エステ・健康食品の店」だった。温かいお茶が疲れた体に美味しかった。



心とからだの  
御休み処・chiyo



大松川橋を渡ると、ランニング中の女子中学生の元気良い挨拶を受ける。ようやく恩山寺入口の看板があった。右折して今日の宿「ちば」の前を通り坂道を上って行く。上り切った寺入口に、桜をバックの「修行大師御尊像」が立っていた。



Sちゃんの写経

十八番札所・恩山寺





民宿「ちば」

ご朱印係りは、若い綺麗な女性だった。Sちゃんが達筆な写経を納める。お勤め後は、「ちば」まで一投足。お風呂は近くの「お宝の湯」に入った。「ちば」は、なかなか良い宿だった。また、ドライバーの宿泊料金が無料は嬉しい誤算だった。

第2日目 4月13日(水・晴) 歩行日数=6日 距離=約27.7Km(山道2ヶ所)  
朝食5:30-出発6:30-十九番札所・立江寺7:35~8:10-二十番  
札所番札所・鶴林寺12:05~13:00(昼食・休憩)-二十一番札所・太  
龍寺15:20~16:00-民宿「龍山荘」16:55(泊)

龍山荘 徳島県阿南市加茂町黒河6 0884-25-0658

一泊二食6500円 ・食事はまあまあ ・トイレはウォシュレットでない  
・お風呂は宿に大きいものがある ・外人さんが泊まっていた

今日もいい天気だった。民宿「ちば」から十九番札所・立江寺は近い。寺近くに宿泊可能な立派な接待宿があった。しだれ桜が咲く山門を潜る。境内はさほど広くないが本堂は大きく立派だった。

田舎道をたどり次の二十番札所・鶴林寺に向かう。田んぼは早くも耕運機が右に左に忙しく田植えの準備をしていた。勝浦町では、何処かのお母さんが飛んで来て「ティッシュ入れ」のお接待してくれた。

鶴林寺は山中なので、近くのローソンで昼食を購入する。勝浦川沿いに進んでいくと、前方西に尖った高い山が見えた。

先ほどからどうも気になって仕方がなかったが、どうやら「剣山」(つるぎさん・1955m)だった。四国に2000m近い山があるのは驚きだ。

鶴林寺の山道に入る。寺は標高約500m。標高差約300mだから、最低でも1時間はみななければならない。でも、まあ皆さん元々山は好きだから、全く気にはならない。ただ、暑いのは堪らない。



# 地理院地図

GSI Maps





# 地理院地図

GSI Maps





鶴林寺寺名は、釈迦涅槃（入滅）のとき、沙羅の木が、まるで鶴の羽のように真っ白に枯れたという伝説があり、「鶴林」とは釈迦涅槃の「沙羅双樹の林」を意味するという。お勤め後、境内で昼食を頂く。良い天気でいい気分だった。対岸の山上に、二十一番札所・太龍寺らしきものが見えた。

山を下り那賀川を渡り、再び山道に入り、若杉谷川沿いに太龍寺に上って行く。那賀川から標高差約500m。登山なら1時間半程度。

十九番札所・立江寺



お接待差し入れ





二十番札所・鶴林寺



シンボルの鶴

太龍寺は秀囲気のある寺だった。説明板には、「古来より西の高野と呼ばれ、弘法大師二十四歳時の著書“三教指帰”に十九歳の時、阿国太龍嶽に登り虚空蔵求聞持の法を修し・・・」とあり・・・中略・・・「青年時の大師の思想形成に多大な影響を及ぼした、当山は大師信仰の中で重要な位置を占めている」とあった。





### 二十一番札所・太龍寺

振り返れば、那賀川の向こうの山上に二十番札所・鶴林寺が遠望出来た。時間が遅くなった。今日はこれを下れば終了。急坂を宿の龍山荘目指す。

龍山荘は回りに何もない超山中だが、宿はマアママ。完璧にお遍路で食べている宿だった。

また歩き遍路で車がない場合、ここに宿がないと、どうにも困ってしまう。そんな意味で貴重な宿と言える。



外人のお遍路さん



龍山荘と女将



第3日目 4月14日(木・晴) 通算歩行日数=7日 距離=約27.7km  
 朝食6:00-出発7:30-二十二番札所・平等寺8:40~9:15-由岐町「京屋食堂」(昼食)11:55~12:40-国民宿舎「うみがめ荘」16:00(泊)

うみがめ荘 徳島県海部郡美波町日和佐浦370-4 0884-77-1166  
 一泊二食6600円 ・食事はまあまあ ・設備は古い ・トイレはウォシュ  
 ットでない ・大トイレが狭くて参った ・トイレの履物がない ・風呂は館  
 にある ・宿泊費を前払いで請求された ・二度と泊まりたくない宿

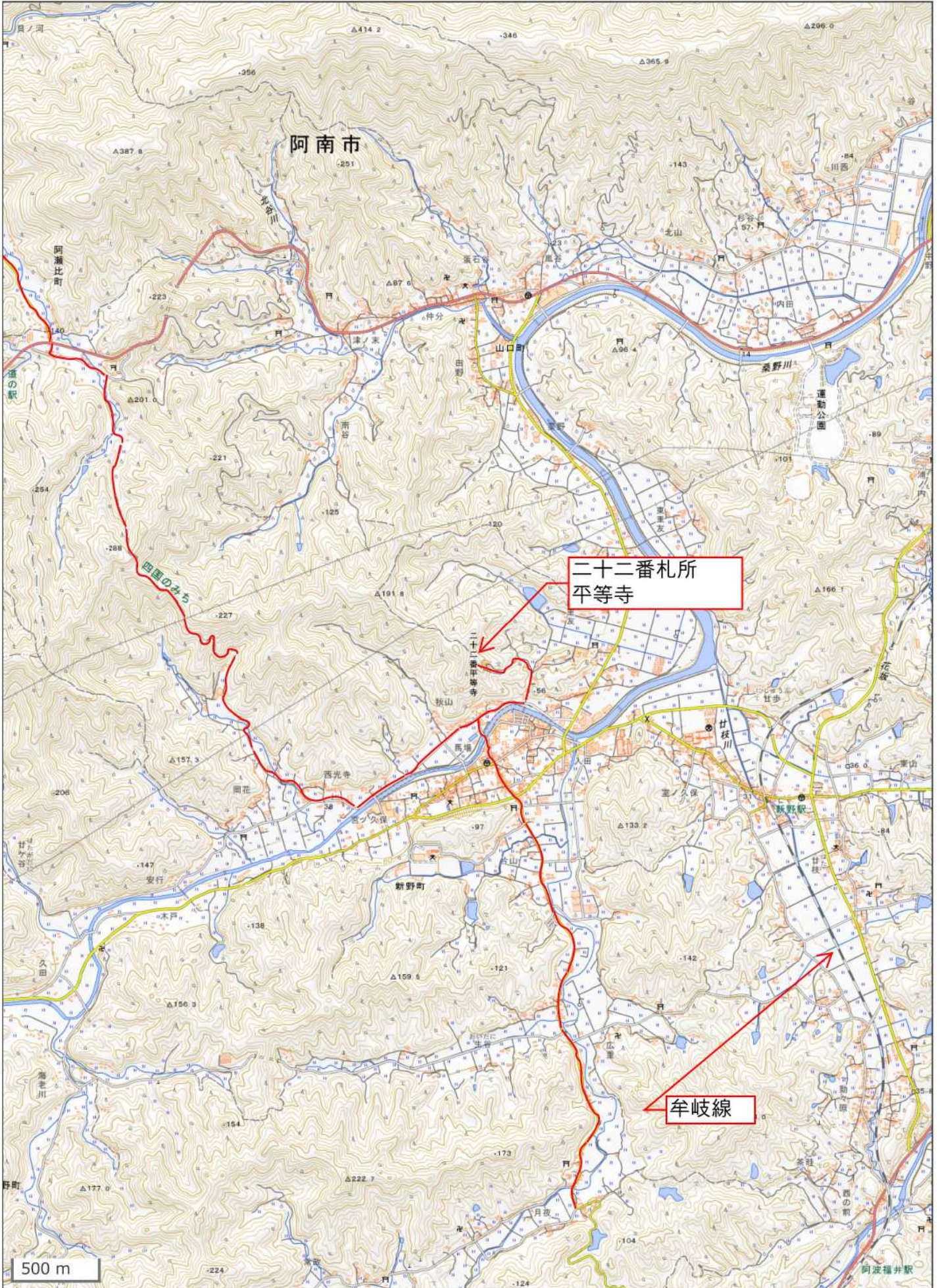
朝、出発時宿の女将が見送ってくれた。宿から阿瀬比町を進む。途中、美しい桜が咲いていた。先は孟宗竹が生い茂る薄暗い山道になった。向こうから、逆打ちの女性が1人やって来た。女性の1人お遍路はなかなか勇気がいるだろう。

小さな峠を越えれば平等寺は近い。田んぼでトラクターが代掻きに忙しかった。ド田舎の田園地帯に巨大な平等寺に驚いた。



# 地理院地図

GSI Maps





長く急な階段を上って本堂でお勤め。この寺は何か解放的で大らかだった。様々なグッズを販売していた。トイレは立派で綺麗。

竹の杖が杖立てに沢山あった。微妙に曲がった美しいのを一本頂いた。今、伊豆をこの杖で歩いている。



二十二番札所・平等寺



山を縫ってどんどん南下し、福井ダムに出る。今日は待望の海が見えるので嬉しい。山でガサガサ山菜を採っていた。こちらでは「スカンポ（イタドリ）」が珍重されている。ワラビは余り食べないとのこと。

桜が満開の由岐坂峠を越える。眼下に青い海が広がっていた。下ると由岐漁港に出る。同時に牟岐（むぎ）線・由岐駅がある。そろそろ昼食時間だ。バスで駅付近を回り、「京屋食堂」に入った。夫婦でやっている食堂で、刺身定食が美味しかった。



由岐漁港付近





午後は海岸線を更に南下する。美しい海を眺めながら、春を満喫しお遍路が続く。

だいぶ疲れが出て来た頃、ウミガメとその産卵地で有名な大浜海岸が見えた。国民宿舎「うみがめ荘」宿泊が楽しみだった。

「うみがめ荘」に到着する。庭のプールに何頭かウミガメが泳いでいた。人間に慣れ近くに行くと寄って来た。まだ幼いカメだった。

しかし、うみがめ荘は期待に反して酷い宿だった。まず、古かった。設備投資を全くやっていない。3Fに宿泊だったが、エレベーターがなかった。トイレのスリッパがない。水道管はむき出し。洋式トイレは狭くてお尻を拭けない。食堂のワインは、買うより持ち込み料が高かった。

汚れた露天風呂が放置されていた。極めつけは、宿泊料金が「前払い」だった。経験的に宿泊費前払いは山小屋だけ。ここは山小屋並みか？

第4日目 4月15日（金・晴） 通算歩行回数＝8日 距離＝27.6km

朝食6:00－出発7:10－二十三番札所・薬王寺7:40～8:20－室戸  
まで72Km地点10:45－お食事処「ゆずや」11:50～13:00－室戸  
まで64Km地点13:40－鯖大師14:15－海南町・海部川16:30  
－大和旅館18:10（泊）

大和館 高知県東洋町甲浦 0887-29-2100

一泊二食＝6000円 ・食事は良かった ・宿は綺麗だった ・6000円は  
安い ・泊まりたい宿。いい宿でした。 ・女将さんもサイコー ・温泉は、突  
喰（しにくい）温泉「ホテル・りびえら・しにくい」600円



欲しかった表情が優しいお地蔵さま

二十三番札所・薬王寺





# 地理院地図

GSI Maps





朝、すぐ近くの二十三番札所・薬王寺に向かう。寺は立派だった。日和佐川を渡って行くと右手の小高い山に堂々と佇立していた。あたかも街を睥睨するかのようだ。特に壇上伽藍は立派な塔だった。

今日から二十四番札所・最御崎寺まで「約7.5 Km」と長い。この間、勿論、札所は一箇所もない。頑張り所だった。

寺を出てR55を上って行く。頂上付近で日和佐トンネルを潜る。下ると再び港に出る。牟岐（むぎ）漁港だった。

食堂を探す。「ゆずや」があった。中年夫婦でやっている店だった。「うつぼ料理・モズク・かつ丼・刺身」を食べた。特に「うつぼ料理」は、正に珍味で美味しかった。

午後牟岐線に沿ってR55を南下する。途中、草鞋大師、鯖大師がある。海南町に入って行く。時間は大分経過し疲れた。今日は、海部川橋で終了とした。

ところが、バスが私たちの場所を分からなくて、新海部川橋まで疲れた足を引きずった。

温泉は、宍喰温泉「ホテル・りびえら・ししくい」は、600円と安価でサイコーの温泉だった。宿は「大和館」。これまた6000円と安価で料理・サービスとも、驚くほど良かった。疲れた体に「ソーメン」が優しかった。

**第5日目 4月16日（土・晴） 通算歩行日数＝9日 距離＝27.9 km**

朝食6:00－バス出発6:40－巡礼開始7:00－高知県境9:10－生田果実園（すくものオバサン店）10:20－東洋大師10:50－焼きそば屋「浜木綿」11:00～12:05－法海上人堂13:40－室戸岬まで21 Km  
地点15:20－温泉「ホテル・明星（あけのほし）」－室戸荘17:30（泊）

**室戸荘** 高知県室戸市室戸岬町6939－ 一泊二食5800円 0887-22-0409  
・宿はやや古い ・食事は良い ・女将さんはグッド ・トイレはウォシュレットでない ・風呂は近くの「ホテル明星」（あけのほし＝割引あり ・宿泊したい宿

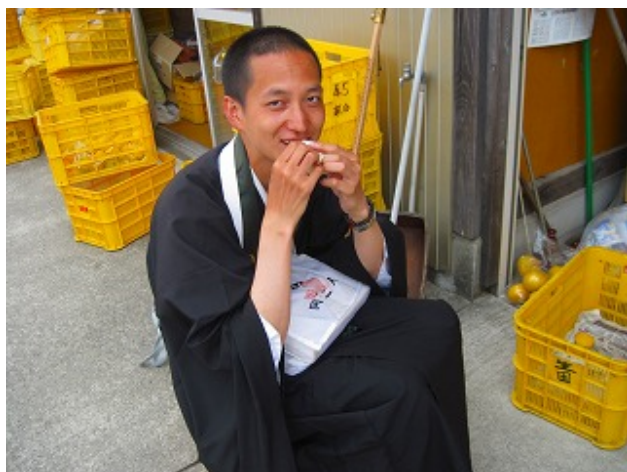
大和館の女将に見送られバスで昨日の最終地から出発。今日も室戸岬を目指し海岸線を歩く。すぐに坊さんの格好をした若い衆に会った。

青年は、「長岡岳秀（がくしゅう・僧侶名）」さんで、和歌山県日高町・永福寺の息子だった。高野山で二年間修業し、終了記念のお遍路と話していた。

ほどなく、水庄トンネルを潜れば、待望の高知県だった。やっと高知県に入った。

先の高知県建設協会のお接待で御夫婦が休んでいた。今回は、昨年秋より歩きの方を多く見かけた。春は出掛け易いかもしれない。

赤葉島に差し掛かる。辺りは見事な砂浜が続いている。生見に来ると道端の店でババさまが「すくも・小夏（ニューサマーオレンジの小さいの）」を売っていた。ピラには、生田果樹園「南国の潮風と太陽の贈り物・越冬完熟果実」とあった。



長岡岳秀さん



焼きそば屋のババさま



お接待してくれ何個か頂いたが、疲れた体にとても美味しかった。岳秀さんも座っていた。やがて東町の東洋大師に着いた。変化がないお遍路なのでお寺があると有り難い。国旗とか旗をいっぱい飾ったお寺だった。

寺を辞すと裏通りにババさまが営む「浜木綿」と言う焼きそば屋があった。時間は早かったが、ここで昼食にした。焼きそばというか、焼きうどんというか、お好み焼きとか、モーレツなボリュームと味、圧倒的な存在感の代物だった。タマゴを掛けると20円追加料金だった。

店にいた茶髪のトレーナーのヤンキー娘は昔、マグロ船で焼津に来たと話していた。午後も海岸線をグングン南下する。昔、あたりは道路が未整備で海岸のゴロタ石の音がゴロゴロと音を立てていたらしい。別名、「ゴロゴロ海岸」と呼ばれていたという。

当時は、お遍路も半端でなかったでしょうね





浜木綿・モーレッツ焼きそば



地元のオバサンがスカンポをバイクの籠に大量に入れていた。やっぱりこちらはワラビよりスカンポのようです。その日の宿で出ましたが、シャキシャキと美味しかった。(どうも食べる話題が多いですね。仕方がないか・・・笑)

即身成佛・法海上人堂で休憩。今日もだいぶ歩き、疲れを感じて来た。この先、室戸岬まで21Km地点で終了した。

お風呂は、ホテル・明星（あけのほし）。割引がありいい温泉だった。宿は室戸岬の室戸荘。古い旅館だったが、料理が良かった。珍しい「クジラの刺身」をいただいた。部屋の前には太平洋が広がっていた。



スカンポババさま

室戸荘





親子でっか？！

第6日目 4月17日（日・晴） 通算歩行日数＝10日 距離＝28km

朝食6：00－バス出発6：40－巡礼開始7：00－夫婦岩8：30－シレスト・むろと（昼食・休憩）11：30～12：25－御厨人窟12：40－二十四番札所・最御崎寺13：15～13：50－室戸警察署付近14：30－温泉  
－室戸荘16：10（連泊）

バスで昨日最終地に向かう。今日もいい天気。今回のお遍路も好天に恵まれた。感謝・感謝である。朝日の中、再び室戸岬に向かう。途中のお接待で休んでいると一人の中年男性に会った。

茨城から来たという小野さんで、「単独・歩き・逆打ち・別格（番外）も全てお参り」の究極お遍路さんだった。逆打ちは、道順が分かりにくい。番外は大変との話でした。それにしても凄い方がいます。

やがて夫婦岩に着いた。なかなか良い岩。上りたくなった。最御崎寺まで13Kmの標識まで来た。道端の喫茶店を借りて休憩。今日は最後のお遍路日。疲れがピークかもしれない。皆さんも似たり寄ったり。昼食は先の「シレスト・むろと」で頂いた。

まだ、新しい洒落た店だった。解禁になったばかりの「アワビ料理」を食べた。

巨大な青年大師像脇を通過し、空海の名の由来となった御厨人窟（みくろど）着。確かに洞窟から見えるのは、「空と海」だけだった。





# 地理院地図

GSI Maps







夫婦岩

御厨人窟



寺は頭上にある。寺まで標高差65mはキツイ。今回最後のお勤めを済ませ下山。本日の予定は金剛頂寺までだったが、結局15:00室戸警察署付近で終了となった。ちょっと計画に無理があった。

ホテル・明星で入浴し室戸荘で連泊。室戸荘は昨日の料理が良かったような気がした。気のせいかな。ともあれ、5日間のお遍路は無事終了した。有難うございました。感謝・感謝。



小野さん

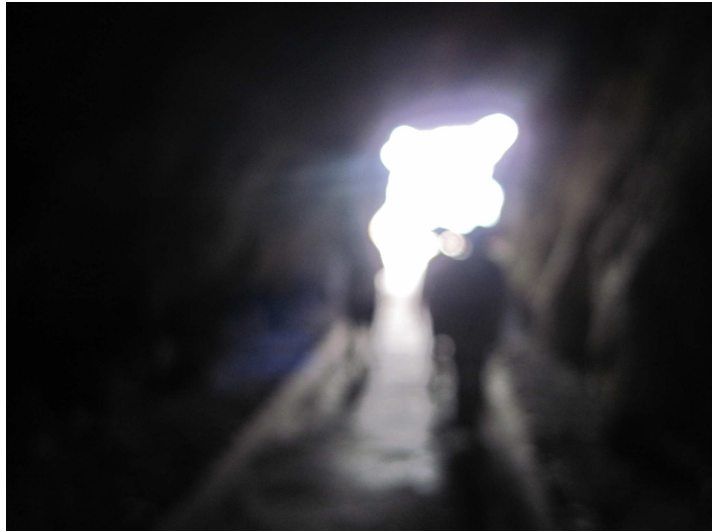
最御崎寺







中岡慎太郎像



御厨人窟（2020年現在は入れない）



二十四番  
札所  
最御崎寺

第7日目 4月18日（月・晴） 歩行＝なし  
朝食6：00ーバス出発7：30ー淡路SA12：00ー長泉町18：30  
ころ

大きな渋滞にあわず無事帰静した。静岡の桜はすっかり終わってしまった。お疲れ様でした。ご苦労様でした。合掌。





## 切り抜き帳

丁石・・・五色台には、空海ゆかりの四国八十八箇所数えられている白峯寺、根香寺がある。遍路道を歩いてお参りをするお遍路さんが、道に迷わないため、またどの位歩いたか距離がわかるようにこの丁石が作られた。丁石には、舟形の石に刻まれたお地蔵と、「十九丁目」などという丁数が刻まれています。丁石間の距離は、正確ではないが、ほぼ1丁（109m）ある。

眉山・・・「びざん」は、徳島県徳島市にある山であり、徳島市のシンボリック的存在として親しまれている。どの方向から眺めても眉の姿に見えることからその名がついたといわれる。徳島県立城南高等学校や徳島市立高等学校をはじめ徳島市内にある学校では校歌の歌詞に「眉山」が登場する。2007年にはここを舞台にした映画「眉山びざん」が公開された。さだまさし原作。とくしま 88 景に選定。

仁王門・・・仁王（金剛力士・こんごうりきし）の像を左右に安置した門のこと。寺の中に悪いものが入りこまないように置かれた門です

地蔵越え・・・地蔵越（じぞうごえ）は、徳島県徳島市加茂名町と徳島市八万町の堺、眉山に位置する峠である。標高 144m。

高德線・・・高德線（こうとくせん）は、香川県高松市の高松駅から徳島県徳島市の徳島駅に至る四国旅客鉄道（JR 四国）の鉄道路線（幹線）である。

写経・・・写経とは、仏教において経典を書写すること、またはその書写された経典のことを指す。写経は、印刷技術が発展していなかった時代、仏法を広めるために行なわれていた。また、複数の僧侶が修行・講義・研究するために写経をすることは必要であった。その後、写経することに功德があると言われるようになった。

御厨人窟（みくろど）・・・高知県室戸市室戸岬町にある弘法大師伝説の残る海蝕洞である。御蔵洞とも表記される。四国八十八箇所・最御崎寺の近くにあり、番外札所の一つ。日本の音風景 100 選。

ゴロゴロ海岸・・・その昔、四国遍路の難所として、ピンポン玉から漬物石くらいの大きさの丸い石がゴロゴロとしている所から「ゴロゴロ海岸」と呼ばれた。この辺は、黒潮が海岸まで迫って来るので、波の荒い季節にはゴロゴロ～ゴロゴロ～と石の転がる音が聞こえる。

中岡慎太郎・・・中岡 慎太郎（天保 9 年 4 月 13 日～慶応 3 年 11 月 17 日は、日本の志士（活動家）。陸援隊隊長。名は道正。通称ははじめ福太郎（福五郎とも）、光次、のち慎太郎。号は遠山・迂山など。坂本龍馬らと共に薩長同盟の斡旋に尽力するも近江屋事件で横死（不慮の死）した。

スカンポ・・・（イタドリ）タデ科の多年生植物。山野や道端、土手などのいたるところで群生し、草丈は 1.5m ほどになる。雌雄別株で、夏から秋に細かい白花を咲かせる。春先の若芽は食用になる。